

教科（ 数 学 ） 科目（数学探究Ⅱ） 学年（ 3 ） 単位数（ 3 ）

類型（ 文 ）

履修規定（ 必修 ）

学習の目標		使用する主な教材					
2年次に学習した基礎的な知識・技能の習得を基にして、ひとつの単元にとらわれず、多面的にものを見る力や論理的に考える力を育成する。数学的活動を通して創造性の基礎を培うとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを積極的に活用する態度を育てる。		自作数学問題 数学Ⅱ・B					
期	月	学 習 内 容	学 習 の 具 体 的 内 容 と ね ら い	主な評価の観点			
				①	②	③	④
一 学 期	4	1 章 確率統計 1 確率分布	・ 確率変数の期待値、分散、標準偏差について理解し、それらを求められるようにする。		○	◎	
		2 統計的な推測	・ 正規分布について、その分布曲線の形と標準偏差との関係を理解できるようにする。			○	◎
	5	2 章 代数幾何 1 式と証明	・ 整式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにする。 ・ 等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。	◎	○		
	6	2 図形と方程式 3 ベクトル (1) 平面ベクトル (2) 空間ベクトル	・ 座標や式を用いて、直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 ・ ベクトルの基本的な概念について理解し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。			○	◎
二 学 期	7	4 数列	・ 簡単な数列とその和及び漸化式と数学的帰納法について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	◎	○		
	8	3 章 解析 1 いろいろな関数 (1) 三角関数	・ 角の概念を一般角にまで拡張して、三角関数及び三角関数の加法定理について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。		○	◎	
	9	(2) 指数関数 (3) 対数関数	・ 指数関数及び対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。		○	◎	◎
	10	2 微分法・積分法 (1) 微分法 (2) 積分法	・ 微分・積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	◎	○ ◎	○	
	11	4 章 良問に触れる 1 頻出問題	・ 過去に出題された入試問題の中から精選した良問を解くことによって、多面的にものを見る学力や論理的に考える力を養う。		○	◎	
三 学 期	12	2 融合問題				○	◎
	1	5 章 課題研究 1 テーマ選定 2 レポート作成	・ より深く学びたい分野を選び、その研究を進めることを通して、創造性の基礎を培うとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを積極的に活用し、レポートにまとめる。	◎	○	○	◎

評価の方法	① 「関心・意欲・態度」：代数、解析、幾何、確率・統計における考え方に関心を持つとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。 ② 「数学的な見方や考え方」：代数、解析、幾何、確率・統計の考えにおいて、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。 ③ 「数学的な技能」：代数、解析、幾何、確率・統計の考えにおいて、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能技術を身に付けている。 ④ 「知識・理解」：代数、解析、幾何、確率・統計の考えにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。 以上4つの観点を考慮しながら、成績は定期考査・平常の学習成績・学習態度・出席状況を総合する。配分は、思考・判断・表現、技能、知識・理解80%～90%（それぞれ定期考査、平常点10～20%で評価）、関心・意欲・態度10～20%で、合計は100%とする。また、平常点とは、平常テスト・課題テスト等、関心・意欲・態度には提出物、授業への取り組み、課題の状況、忘れ物等を含める。学年末の成績は各学期の成績をもとに算出する。
備考	